

# 太陽の子

2017年 1月 No.158

冬の号

発行

日立市助川町5-14-8

TEL(23)2620 FAX(33)9150

ホームページ <http://www.taiyonoie.com>

Eメール [npo@taiyonoie.com](mailto:npo@taiyonoie.com)

NPO法人 日立太陽の家

日立重症心身障害児(者)を守る会

日立太陽の家支える会



歓声や笑い声が響く中でたくさんの月日が流れていきました。  
楽しかった思い出はいつまでも心の中に。ありがとう鳩ヶ丘スポーツセンター。

## ありがとう鳩ヶ丘スポーツセンター

ひまわり・しいの木学園 管理者 菊地 祐二

昭和53年に開園した鳩ヶ丘スポーツセンターは、近隣の障害者施設や地域に住む多くの人達から、スポーツ振興やイベント会場としても利用されてきました。しかし、建物の老朽化や今後の鳩ヶ丘再整備に伴い閉館が決まり、感謝の会を計画、実施することになりました。

38年間の開館の思い出は沢山あります。太陽の家では、車椅子で広い館内を思い切り走り、大玉転がしや魚釣りゲーム、ミニ運動会をしたり、しいの木学園では講師の元でエアロビ運動を行ったり卓球バレーを楽しみました。ひまわり学園では作業療法士の講師の指導で体育レクレーションによる体力作り。また、関取大至との交流会が行われ、間近で相撲甚句を聴くことが出来たり、ピッピコンサートミニ版で音楽や手話を楽しみました。障害者親の会3団体主催の三者大会でのふれあい、施設職員の交流を目的に、毎週1回バドミントンやバレーで汗を流したこともありました。太陽の家改修工事のために施設が使えない期間があり、スポーツセンターを借りての療育、昼食は各持参のお弁当を食べた思い出もあります。

感謝の会は、太陽の家、しいの木学園、ひまわり学園、居宅介護事業所から多くの利用者が集まり、ダンスとゲームを行いました。「ありがとう鳩ヶ丘スポーツセンター」とゲームで組み上げたダンボール文字板の前で全員で写真を撮り、別れを惜しみながらの解散となりました。

跡地には障害者福祉施設として新たに再整備計画が進んでいます。近隣の施設を集約し、生活介護、訓練、就労等サービスを複合的にを行い、自らのストレッチングスを最大限に発揮し自己実現が可能となる支援、利用者の多機能なニーズに合った設備の他、地域住民との交流の場が提供され、安心して暮らしていくことが出来る環境が整います。

平成31年度完成予定。今から楽しみます。

## リハビリ研修報告

作業療法士 浅井 梨枝子

4月から太陽の家で働き始めてあつという間に年が変わってしまいました。新しいことばかりの1年でしたが、色々なことを学ぶことのできた年でした。リハビリの勉強をさせて頂くために、作業療法士が在中している施設に行き、どのようなリハビリを行っているかを見学させて頂いています。施設での研修は、主に個別リハビリの見学、車椅子の制作・修理、レクリエーションなどがあります。

まず個別リハビリでは、それぞれに合ったリハビリを行います。内容は様々で、絵を描きたい方には筆と一緒に持ち、動きに合わせて介助して絵を描いたり、水遊びがしたい方には桶に水をためて泡立てたりします。普段、何かを考え表現することの少ない人でも、絵を描くことで表現することができたり、水や泡の感触や音から感覚に刺激を与えたりすることで、未発達な感覚への刺激になったりします。このように遊びからリハビリを行う場合もあれば、身体を動かすリハビリをする

場合もあります。マッサーージュをして筋肉の緊張を取ったり、座る練習やバランスボールの様な大きいボールにうつぶせに乗り、周りを見ることで頭を上げて首の安定性を高めたりと身体的なリハビリも行っていました。

車椅子の制作や修理は、主に業者さんと一緒に行っていました。制作の場合には、まず作業療法士が座位姿勢の評価をします。支えながら座ってもらい、どのくらい身体を起こしたり伸ばしたりすることが出来るか、身体を起こした時に足や手はどうなるかなどを見たりします。また、その人の動きの特徴や生活スタイルなども考えて、車椅子のフレームや座面を決めていきます。普段から身体に合わせたクッションや使わなくなった車椅子のシートのスポンジを切ったり足したりして作ったシートを使い、様子を見てから車椅子を作ることもあるそうです。1度試しておくことで、実際に制作を始める時に利点や問題点が分かりやすく、スムーズに進めることが

出来ていました。

個別のリハビリとは別に、毎週土曜日にはグループごとにレクリエーションを行っています。グループはいくつか分かれていて、ダイナミックグループ（運動メイン）と視覚グループ（音楽や映像など）に参加させて頂きました。ダイナミックグループでは、クッションチェアをブランコのように吊るしたものや、エアートランポリン、ボールプールがありました。視覚グループでは、スヌーズレンという光を使ったリラクゼーションを行っています。レクリエーションでは、リラクゼーションや運動、楽しみを目的として集団で行っています。また、それぞれの性格や特徴に合わせてグループを分けて楽しめるようにしていました。

研修中は、見学だけでなく小児の正常発達や障害についての勉強や、研修会への参加もしています。施設で行われる勉強会や、他施設などにある作業・理学療法士との交流などもありました。今後も療法士間の繋がりを大切に、たくさんの方の学び、太陽の家で生かしていけるよう頑張りたいと思います。

## 職員リレー

## 笑顔で過ごす

西口 直実

太陽の家、居宅事業所で働き始めて、もうすぐ四年になります。

「二日一回笑おう」太陽の家で大切にされている言葉です。働き始めた初日から今日まで、これだけは守ってこれた!!と、自信を持って言うことができそうです。

でも、一番には利用者さんを楽しませたい。「楽しい」「嬉しい」「幸せ」をいっぱい感じてもらいたい。

この利用者さんはこの曲が大好きだったな……あのデザートおいしそうに食べていたな……ドライブ好きだから海を見ながら走ったら喜んでくれるかな……こんな場所に行ったら楽しめるかもしれない……等々、色々なことを考えたりします。

しかし、利用者さんは自ら「楽しい」を生み出す天才です。スタッフが大慌てでマツトを並べている時に「あきれたねえ」と言って「笑いの場

に変えてくれたのは利用者さんでした。どんなことも「楽しい」に変えてしまうのです。利用者さんにつられて、何回も「おいしいねえ」と笑顔でいたたく食事。残りものでできた私のお弁当も思わず照れてしまうほどです。（でも）日頃、こんなに感謝しながら食事をするこつてあるだろうか……。

開けつばなしの私のかばんを見るたびに、黙ってファスナーを閉めてくれる時、筋肉痛の私をさすってくれた時、そして、バタバタしている私にニコツツと笑ってくれた時……いつもいつも「楽しい」「嬉しい」「幸せ」をもらっているのは私の方だったのだ……と改めて気付かされます。本当にいつもありがとうございます。ごさいます。

これからも、感謝を忘れず日々笑顔で過ごしていきたいと思えます。

# 日立守る会だより

日立重症心身障害児(者)を守る会

## 新年にあたり

日立重症心身障害児(者)を守る会 会長 藤枝 利彰

日立守る会会員の皆様、明けましておめでとうございます。

去年一年間は皆様の協力のもと各行事に参加協力いただき誠に有難うございました。

特に、七月九日に日立重症心身障害児(者)を守る会創立五十周年記念事業の行事としての式典と感謝のつどいを日立市太陽の家で開催し、日立市長をはじめ来賓の方、日立守る会OBの方、太陽の家の職員、日立守る会会員の大家勢の方々に出席を頂き、皆様の協力により無事終了したことに実行委員一同感謝しております。

日立守る会の設立に尽力された初代渡辺会長や諸先輩の方々が大変苦勞して守る会を立ち上げ結成し、現在の守る

会が継続していることと思いません。今後も十年後、二十年後に向けて会員皆様とともに日立守る会を継承していききたいと思っております。

今年、全国重症心身障害児(者)を守る会 関東・甲信越ブロック大会「茨城大会」が茨城県の担当で、九月三十日・十月一日の二日間 ホテルレイクビュー水戸で開催される予定です。現在、茨城県支部理事会で大会実施要綱案・予算の概算案等の作成の準備作業を進めており、今後会員の皆様の協力をお願いすることになると思っております。よろしくお願い致します。

現在の福祉施設(日立市太陽の家)(ひまわり学園)(しの木学園(母子養育ホーム)の老朽化がすすんでいるため、

集約する形で新たな福祉施設が建設される予定になっております。

日立市鳩ヶ丘障害者福祉施設再整備事業予定として①基本・実施設計期間(平成二十九年九月まで)②建設工事期間(平成三十一年三月まで)③施設供用開始時期(平成三十一年四月より)、以上の予定で進んでおりますが、福祉施設が平屋建てになるか、三階建てになるかは現在決定していかないとのことですが、皆さんが利用しやすい安全な施設が出来ることと思います。

平成二十九年度も日立守る会、茨城県守る会、日立市社会福祉協議会等主催の各研修会が開催されますので、ぜひ参加して頂きたいと思っております。



## 在宅支援の充実を

早川 幸子

調子が悪い時、障害者に対して経験のある医師に在宅診療が出来たらと思います。その時障害者の状態を親、医師、施設が共有し、障害者総合力ルテの様な物があれば役立つのでは？又今回の両親のつどいに書いてあったのですが、これからの医療は色々な面から多面的に生活を支える「支える医療」に変わっていく必要があるとありました。私もそう思います。今の医療は病気だけしか見てもらえません。

## 電子機器に翻弄される私

浅川 秀吾

今の日本社会、良くも悪しくも電子機器が幅を効かせています。手でペンを持てない私がこうして何とか文章を書き表せるのも、パソコンがあるお陰です。

このように書く、ああ、身障者にはハイテク機器は必需品なんだ、と皆さんは思われるでしょうが、話はそう単純ではないのです。

たとえば今、例に挙げたパソコンですが、現在、情報機器の主流の座を、持ち運びが容易なスマホ等に明け渡しつつあります。今後もその流れのまま市場でパソコンが入

(次頁へ)



かくれんぼさんの人形劇をみました。今回のお話も、笑顔をたくさんいただきました。またお話を聞くことが楽しみです。(太陽の家)



利用者さんが心を込めて作った無農薬採れたて野菜を販売しています。ご近所の方々にも好評です。(しいの木学園)



避難訓練の様子です。実際に非常ベルを鳴らし、真剣に取り組んでいます。また風の家では不審者対策として警察官の巡視やセコムの防犯ベルを設置しました。(風の家)



親子研修旅行に行ってきました。浅草 仲見世通りを散策し、両国のちゃんこに舌鼓を打ち、東京スカイツリーからの絶景を堪能してきました。(ひまわり学園)

(前頁より)  
物事の変化といえば、最近新聞ででしたか、大手銀行の中には、口座開設や預金引出しに印鑑を使わない方法の導入を検討し始めているという記事を読み、これにも不安を覚えてしまいました。  
印鑑を使わないとなれば、本人確認の方法として指紋や虹彩のパターンをセンサーに読み取らせる事をする訳ですが、現に私は、ATMに固定されたセンサーの上に手の指を乗せようとしても、脳性麻痺による硬直と震えがあるため、その機能を使いたくても使えない状態なのです。もし、このタイプのセンサーを改良して戴けるとしたら、センサーと機械本体がコードで繋がっているタイプにして戴きたいと、切に願っている所なのです。



◎平成二十八年年度

NPO法人日立太陽の家

利用者総数 二百七十五名

男性 百六十一名

女性 百十四名

ご寄付ありがとうございました

◎次の方から寄付を頂きました(敬称略)

鈴木貫一 黒澤弘明 とく名 九月〜十一月

○次の方から物品の寄贈がありました(敬称略) 九月〜十一月

椎名将光 大森健二

藤田恵美子 鈴木一江

根本将伍 石原誠 有馬郷子

綿引柁貴 とく名

前田あけみ 澤島喜美

宮本正輝 村田理恵

三塚栄里子

編集後記

新たな一年を迎えて皆さんと繋がっていられることに感謝をし、日々精進していきたいと思います。(K記)

